

国内新車販売統計（2016年7月）

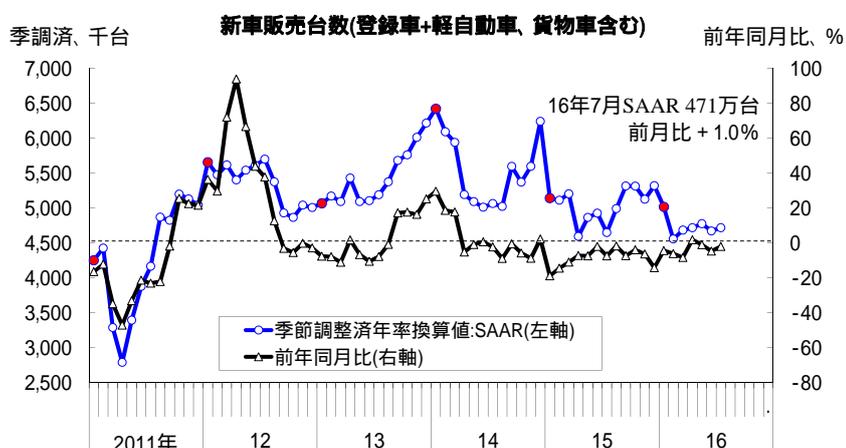
注目点は「国内生産900万台割れ」へ：潮目が変わった米市場の縮小リスクに要警戒

7月新車販売（SAAR）は前月比1.0%増の471万台：6か月連続の年率500万台割れ

- 8月1日発表の7月の国内新車販売台数（登録車+軽自動車、貨物車含む）は前年同月比2.2%減と3か月連続の減少となった。季調済年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)でみた7月の販売台数は前月比1.0%増の471万台となったが、4～7月平均SAARは472万台と15年度実績(494万台)を下回り、内需低迷が続いている(図表1)。
- 内訳をみると、7月の乗用車（登録車+軽）販売台数のSAARは前月比2.2%増の392万台となった(図表2)。このうち、登録乗用車は同0.3%増の277万台とほぼ横ばいで推移した(図表3)。一方、軽乗用車の販売台数(SAAR)は前月比7.2%増の115万台と4か月ぶりに増加したが低水準のままである(図表4)。
- 貨物車（普通+小型トラック）販売台数の7月のSAARは前月比0.1%減の43万台とほぼ横ばいの推移となった。貨物車の販売も16年に入ってから一進一退の不安定な動きが続き、力強さに欠けている(図表5)。
- 業界の注目点は「国内販売500万台割れ」から「国内生産900万台割れ」へと移ろう。6月の国内生産のSAARは前月比0.3%増の901万台と辛うじて900万台を維持したが、16年上期(1～6月)の平均SAARは892万台となった。米国現地時間7月28日に米Ford Motorは、下期の市場環境が厳しくなるとして、16年の米国市場の新車販売見通しを下方修正した。これまで右肩上がり続けていた同国新車市場の潮目が変わった可能性が高く、同国向け輸出の下振れ懸念が高まっている。
- 鉱工業指数をみると、6月の生産は3か月ぶりに増加した。在庫は2か月連続の増加となったが、健全な水準である。7月以降は、三菱自動車水島製作所の稼働再開や、昨年度末のサプライヤー工場爆破に伴う一部メーカーの生産停止及び熊本地震による稼働停止の挽回生産が国内生産を後押しするが、前述のように、内外需の低迷が厳しいことから、国内生産への下方圧力が強い状況は今後も続くことが予想される。
- 中古乗用車の6月の輸出台数

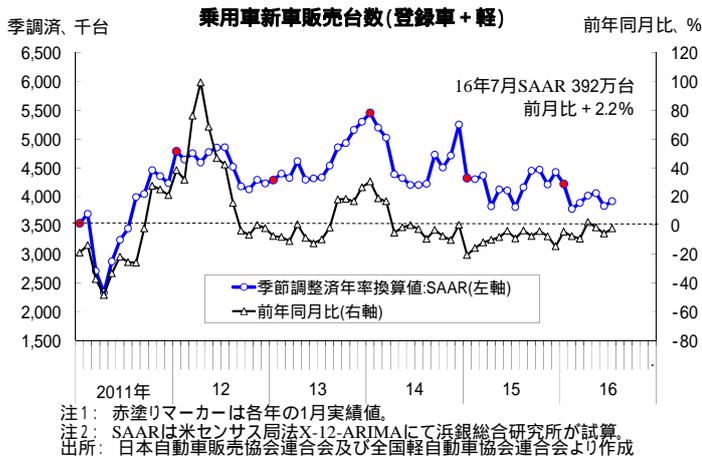
(SAAR)をみると、3か月後方移動平均でみるトレンドは軟調なままである。輸出金額は前年同月比27.2%減と4か月連続の大幅減となった。中古車輸出市場を取り巻く環境は依然厳しいが、6月に反転増加したスリランカ向け中古軽乗用車輸出と、復調したシンガポール向け輸出の今後の動向には要注目である。

図表1 国内新車販売（SAAR）は500万台割れ続く

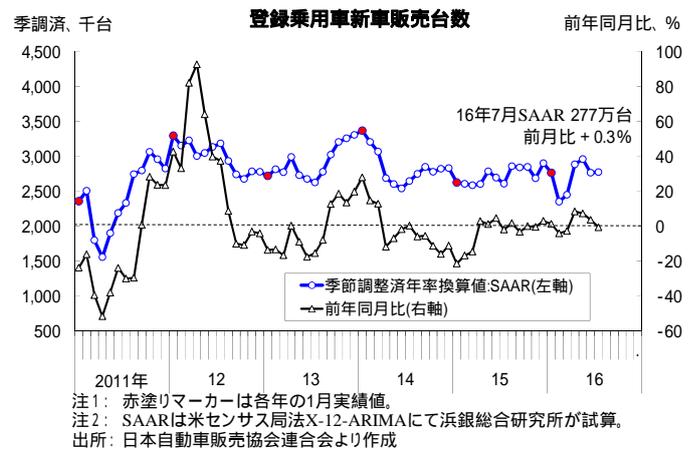


注1：赤塗りのデータは各月の1月実績値。
注2：SAARは本センサ入力高法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

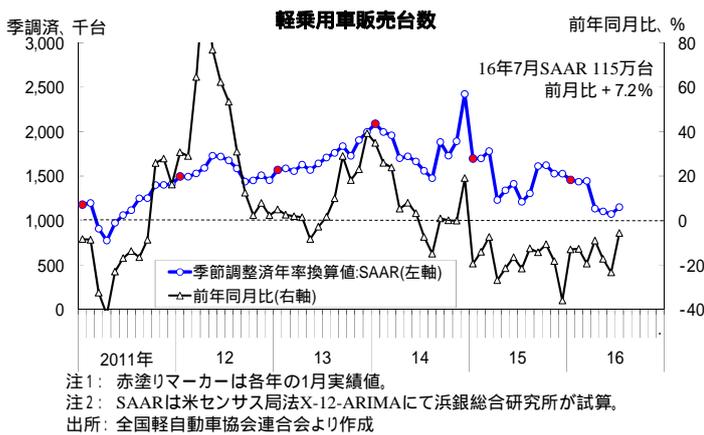
図表2 乗用車販売(SAAR)は前月比2.2%増



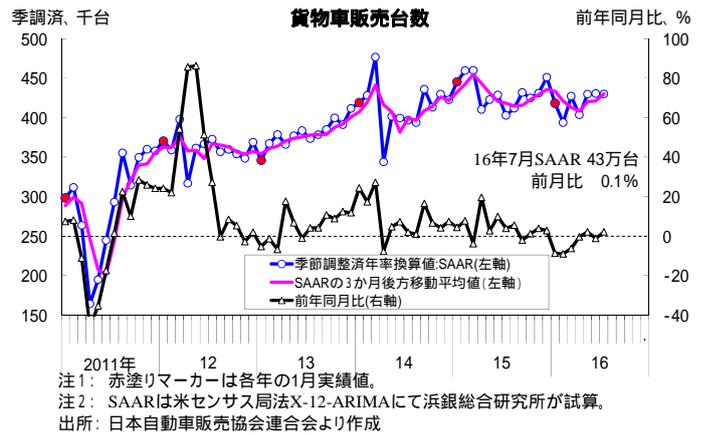
図表3 登録乗用車販売は前月比ほぼ横ばい



図表4 軽乗用車が4か月ぶり増加も依然低水準



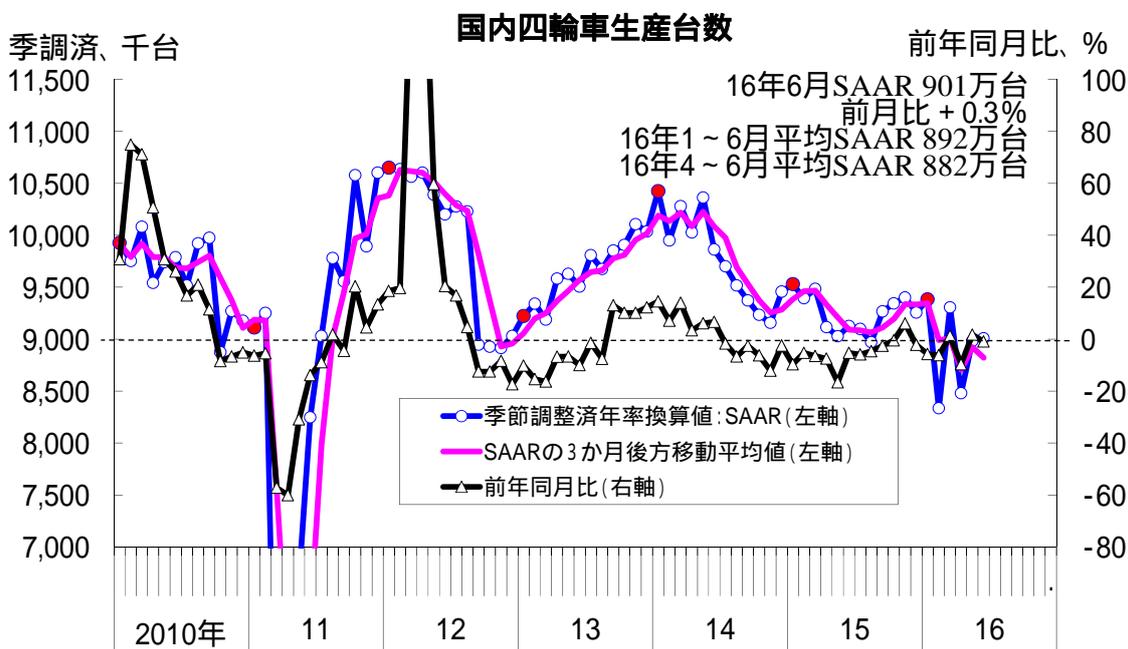
図表5 貨物車販売は横ばい推移で勢いに欠ける



業界の注目点は「国内販売 500 万台割れ」から「国内生産 900 万台割れ」へ

- 7月 29 日に自工会から発表された 6 月の国内自動車生産台数は、前年同月比 1.0%減の 80.4 万台と 2 か月ぶりの前年割れとなった（図表 6）。なお、2014 年 7 月以降、前年超えを記録したのはわずか 3 か月だけとなっている。国内生産の 6 月の SAAR は前月比 0.3% 増の 901 万台とかなり 900 万台をキープしているが、3 か月後方移動平均値でみるトレンドは減少基調が続いている。国内自動車生産の「空洞化」は着々と進行していると言えよう。
- 2016 年上期（1～6 月）の国内生産の平均 SAAR は 892 万台、16 年度第 1 四半期（4～6 月）は 882 万台と、いずれも年率 900 万台を下回っている。
- 前述のように国内需要の低迷が続き、後述するように、主要仕向地である米国新車市場の縮小傾向が続くことによって、輸出の下振れ懸念が高まっていることから、16 暦年そして 16 年度と国内生産が 900 万台を下回る可能性が意識され始めると考える。ちなみに、国内生産が 900 万台を下回った場合、暦年ベースと年度ベースそれぞれで 2011 年以来 5 年ぶりとなる。
- 7 月以降の国内生産は、三菱自動車の水島製作所の稼働再開や、一部完成車メーカーにおけるサプライヤー工場爆発及び熊本地震による生産停止の挽回生産が後押しになる見通しだ。しかし、内需低迷と米国向けを中心とした輸出需要の下振れリスクが高まっていることに要警戒である。

図表 6 国内生産 900 万台割れに現実味



注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

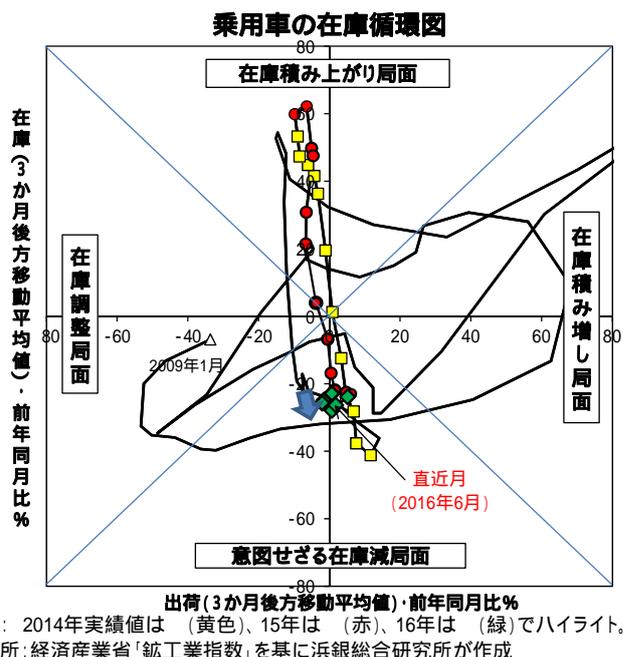
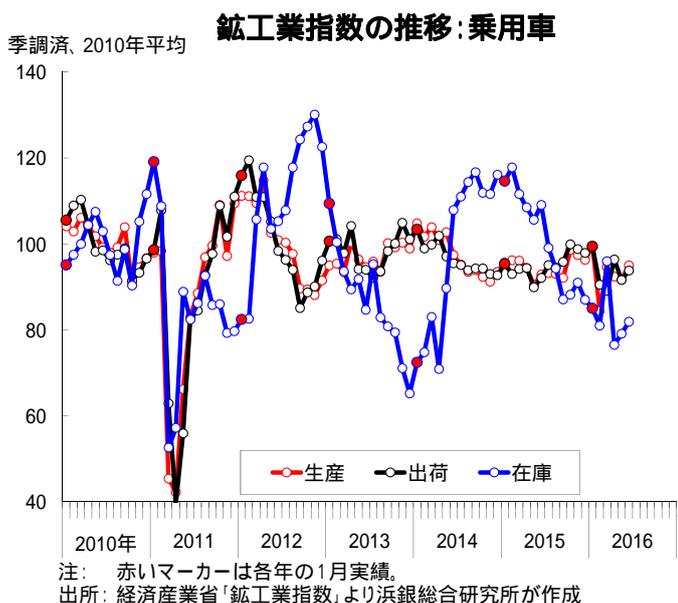
出所：日本自動車工業会のデータより作成

内外需の低迷が続く、生産は盛り上がり欠ける展開が続こう

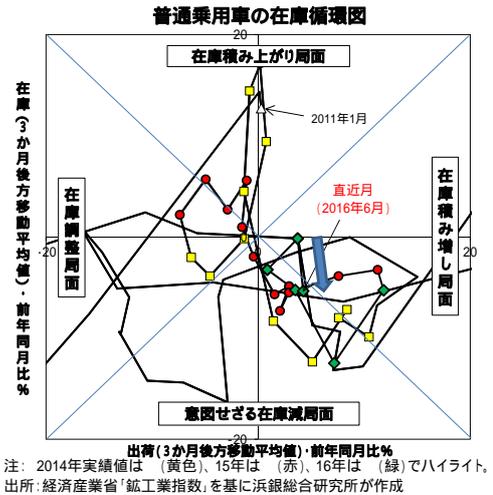
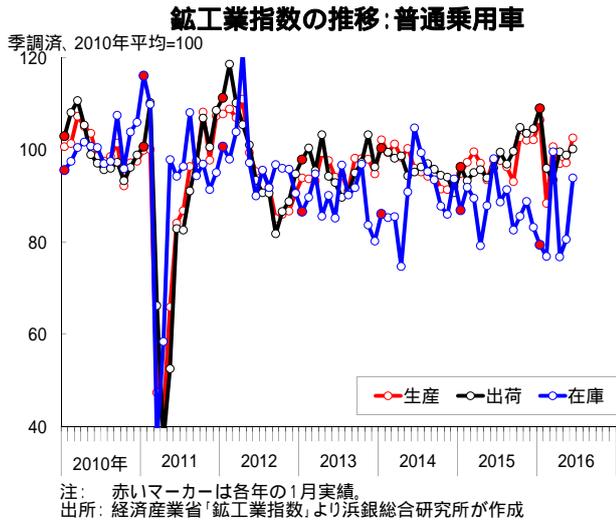
- ・ 鉱工業指数（速報値）を見ると、6月の乗用車の生産は3か月ぶりに増加となった。また6月の在庫は2か月連続の増加となった。在庫循環図上では^(注)、5月に続き6月も乗用車生産は「意図せざる在庫減局面」にあり、在庫水準は健全である（図表7）。もっとも、三菱自動車の燃費データ不正問題で稼働停止となっていた同社水島製作所の生産が7月2日に再開した一方、前述の通り内需低迷が続く、後述のように輸出の減速懸念が高まっている、といった逆風が強いことから、7月以降の乗用車の生産は盛り上がり欠ける展開が予想される。
- ・ 図表8～10では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数（生産、出荷、在庫）の推移と在庫循環図を示している。6月の普通乗用車の在庫（季調値）は2か月連続の増加となった。生産活動は「在庫積み増し局面」から「意図せざる在庫減局面」へと逆戻りした。内外需低迷で生産に対する下方圧力は強まっている。
- ・ 6月の小型乗用車の在庫も2か月連続の増加となったが、在庫循環図上は6月も5月に続いて「意図せざる在庫減局面」となり、同セグメントの在庫水準も健全である。
- ・ 三菱自動車水島製作所の稼働停止が続き、低迷している軽乗用車の生産は6月も前月比で減少した。水島製作所の稼働停止は4月に始まっていたことから、5月から6月にかけての減産は、他メーカー含めて軽自動車需要の減少に合わせて減産したことを意味し、同市場の厳しい需要環境を物語っている。減産継続に伴い、在庫は4か月連続の減少となった。生産は「意図せざる在庫減局面」に止まっており、在庫水準は適正である。もっとも、7月は水島製作所が稼働を再開すること、需要低迷により在庫が再び増加するリスクが依然として高いことから、在庫循環図上では過剰在庫は払しょくされたものの、先行きは予断を許さない状況が続くと予想する。

(注) 新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫（原数値）を3か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率をX軸（出荷）とY軸（在庫）でプロットしている。

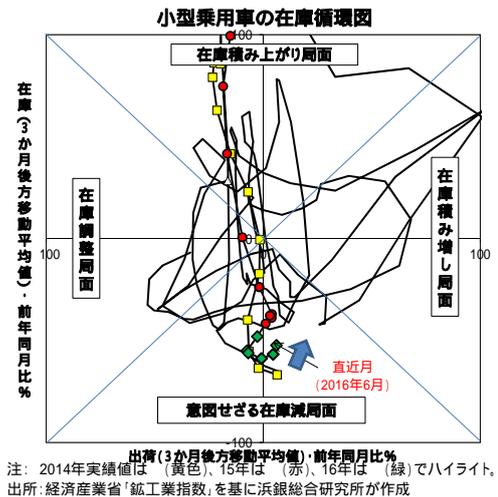
図表7 6月の生産は3か月ぶりに増加



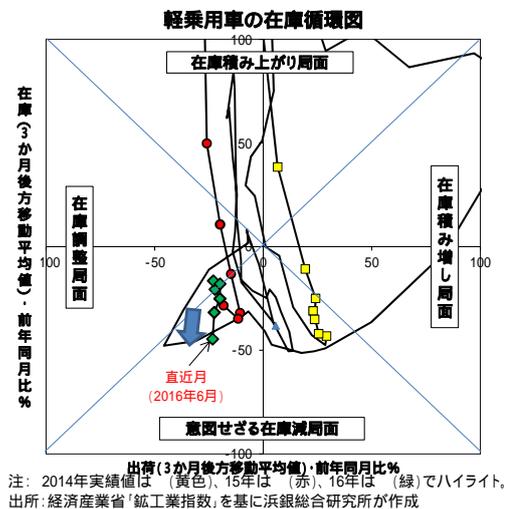
図表8 普通乗用車の生産は「在庫積み増し局面」から「意図せざる在庫減局面」に逆戻り



図表9 小型乗用車は引き続き「意図せざる在庫減局面」



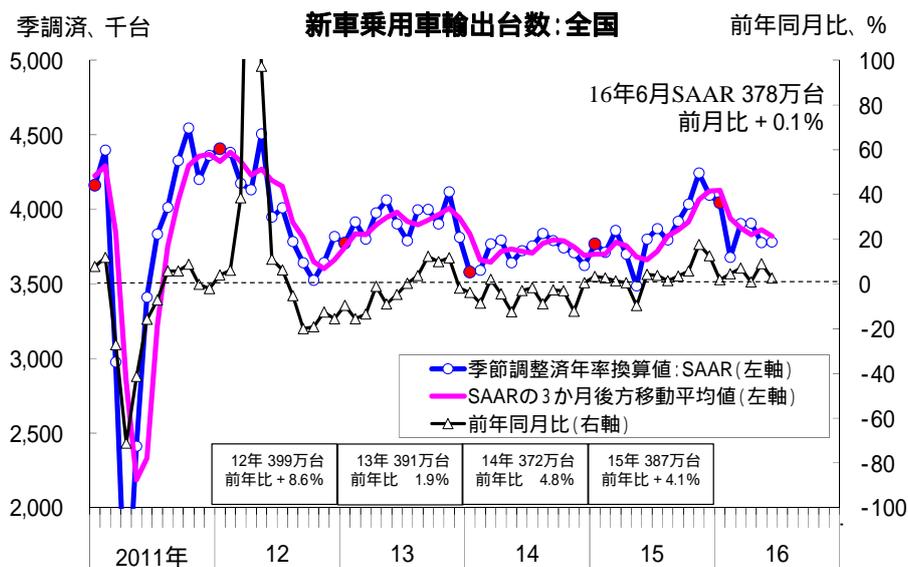
図表10 軽乗用車も「意図せざる在庫減局面」が続くが、需要低迷続き楽観は禁物



6月新車乗用車輸出は前月比横ばいも減少トレンドが続く：米国向け減速が響く

- 7月28日に公表された6月の乗用車輸出台数（軽乗用車と中古車を除く）はSAARで前月比0.1%増の378万台とほぼ横ばいとなった（図表11）。主要仕向地別では（図表12）、当月は米国向けの輸出（SAAR）が減少したことが足かせとなった。
- 日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR）は、6月に前月比1.5%減の1,692万台（当社試算）と節目である1,700万台を割り込んだ（図表13）。3か月後方移動平均値でみるトレンドは、15年終盤に頭打ちした状況から抜け出せないままである。
- なお、長らく拡大基調にあった米国新車市場はいよいよ「潮目が変わった」可能性が高く、今後の動向は今まで以上に要警戒だ。日本時間7月29日未明（現地時間28日）に発表された米Ford Motorの2016年第2四半期決算では、同社は16年下半期の需要環境が厳しくなると見て、同年の米国新車販売見通しを下方修正した。大手の一角が悲観シナリオを描き始めた米国自動車市場の減速が今後も続く可能性は高く、同国向けの輸出がこの先、一段と切り上がって、輸出の大きな押し上げ要因になると期待するのは難しい状況だ。
- 米国に次ぐ主要仕向け地である欧州では、6月の販売台数は前月比1.1%減少と2か月連続の減少となった（図表14）。3か月後方移動平均値でみるトレンドは高位で推移しているものの、一進一退が続いている。6月の欧州向けの輸出は大幅増となったが、このところ、不安定な動きが続いており、今後、上向いていくと予想するのは難しい。
- 最後に、中国の6月の乗用車小売台数は2か月連続で前年同月比2桁増と堅調であった（図表15）。しかし、流通在庫が急増し過剰感が強まっている。乗用車販売台数（生産台数に近い工場出荷ベース）に目を向けると、6月のSAARは前月比0.2%増となり、3か月後方移動平均値で見るトレンドも上向いている（図表16）。もっとも、流通在庫が急増していることから、7月以降に在庫削減の為の減産が行われる可能性が否定できず、同国向け輸出台数が増加し続けると期待することも禁物である。
- 以上のように、主要自動車市場において、日本からの乗用車輸出に対する下押し要因が存在するため、7月以降も輸出への下押し圧力が強い状況が続くと予想される。

図表11 6月の乗用車輸出（SAAR）は前月比横ばい：減少トレンドが続く



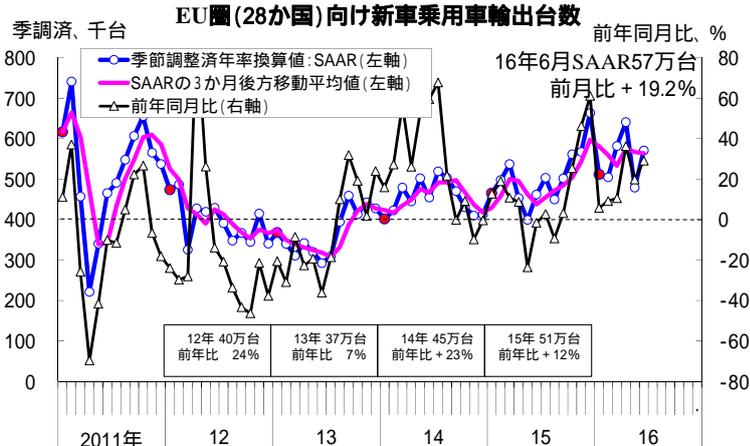
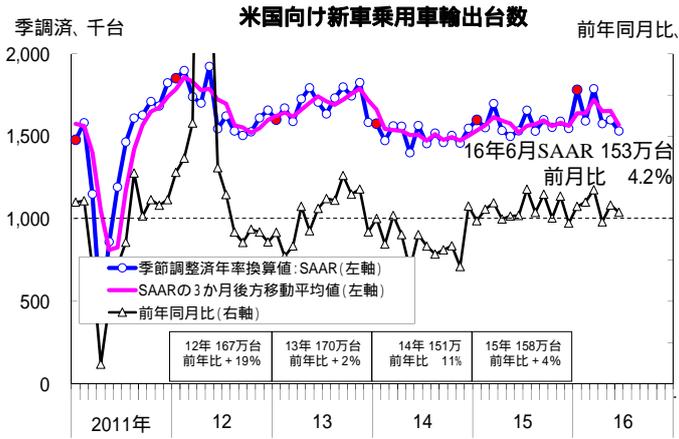
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2：ノックダウンを除く。

注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

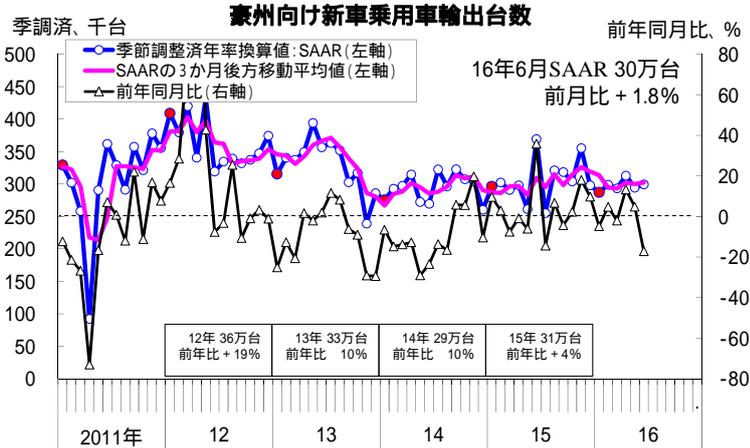
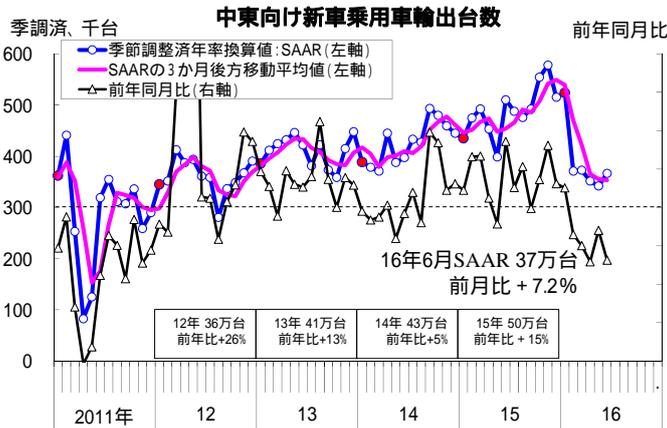
出所：財務省「貿易統計」より作成

図表 12 米国向け新車乗用車輸出台数 (SAAR) が減少



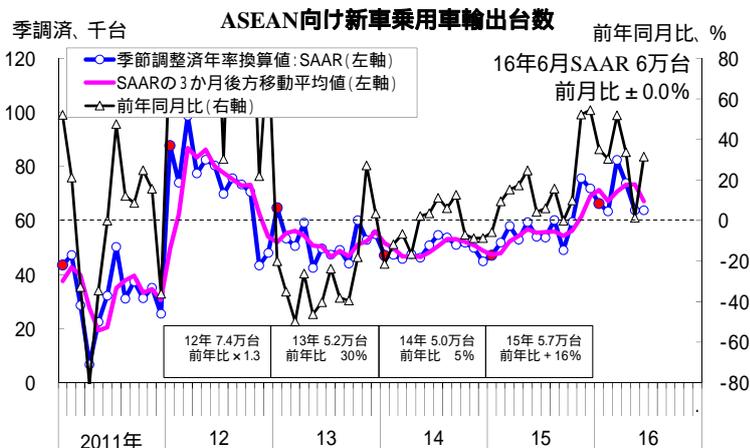
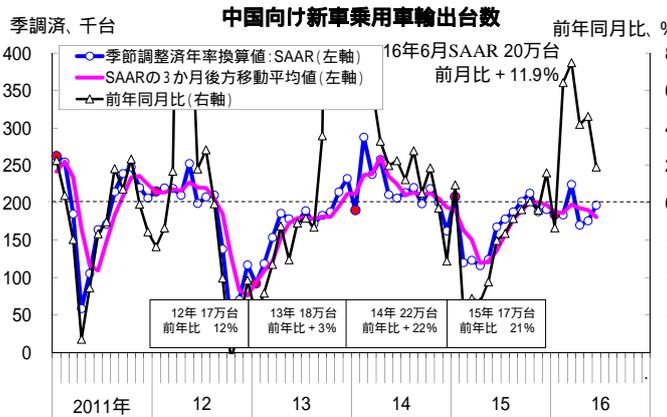
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: ノックダウンを除く。
 注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: ノックダウンを除く。
 注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: ノックダウンを除く。
 注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

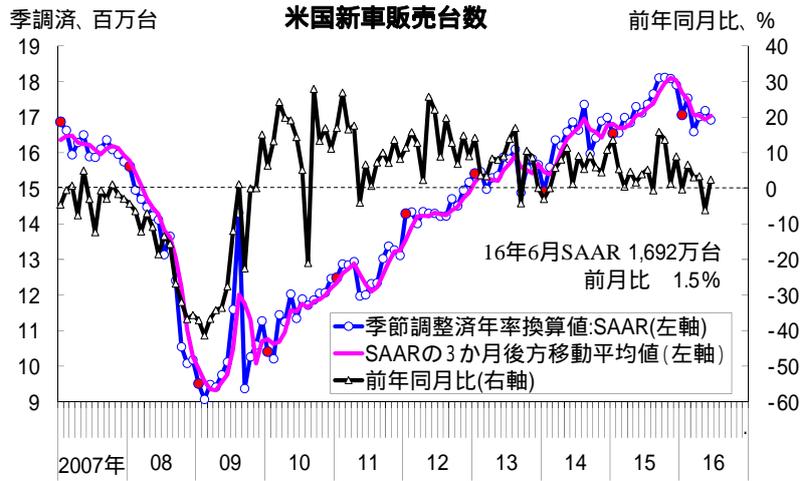
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: ノックダウンを除く。
 注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: ノックダウンを除く。
 注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

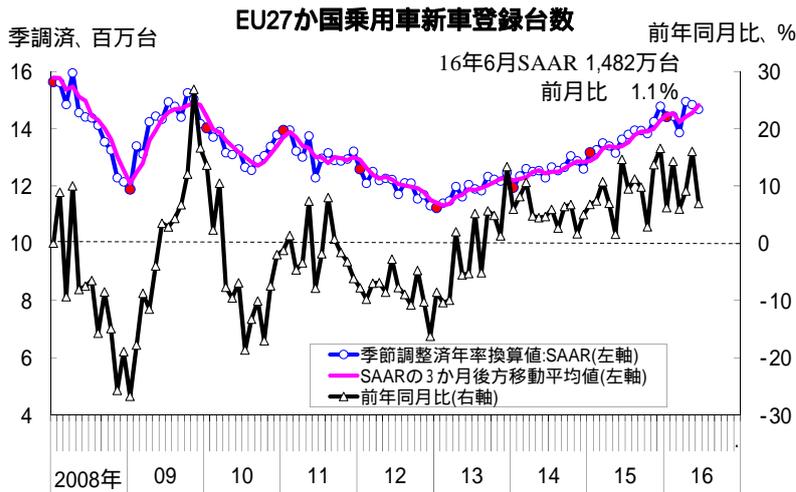
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: ノックダウンを除く。
 注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

図表 13 米国新車販売は頭打ちの状況続く



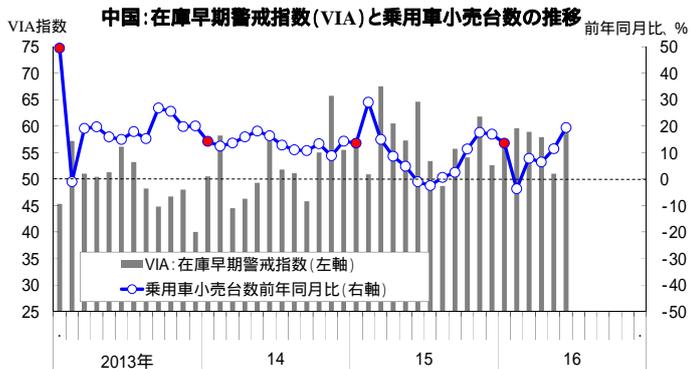
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米国センサ局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Autodata, Bloombergのデータより作成

図表 14 欧州新車販売は高水準も2か月連続の減少



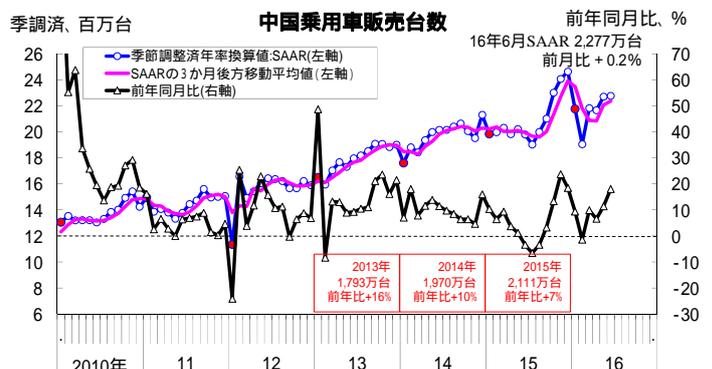
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米国センサ局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 欧州自動車工業会(ACEA)のデータより作成

図表 15 小売堅調も中国の乗用車流通在庫は急増



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: 乗用車小売台数は微型バン(軽自動車バン)を除く。
注3: VIAは50を下回る場合がディーラーでの在庫水準が適正、50を上回る場合が在庫過多。
出所: 中国汽流通協会(CADA)、全国乗用車市場信息連席会(CPCA)データより浜銀総合研究所作成

図表 16 乗用車販売は増加基調



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: 工場出荷ベース。
注3: SAARは米センサ局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 中国汽工業協会(CAAM)のデータより作成

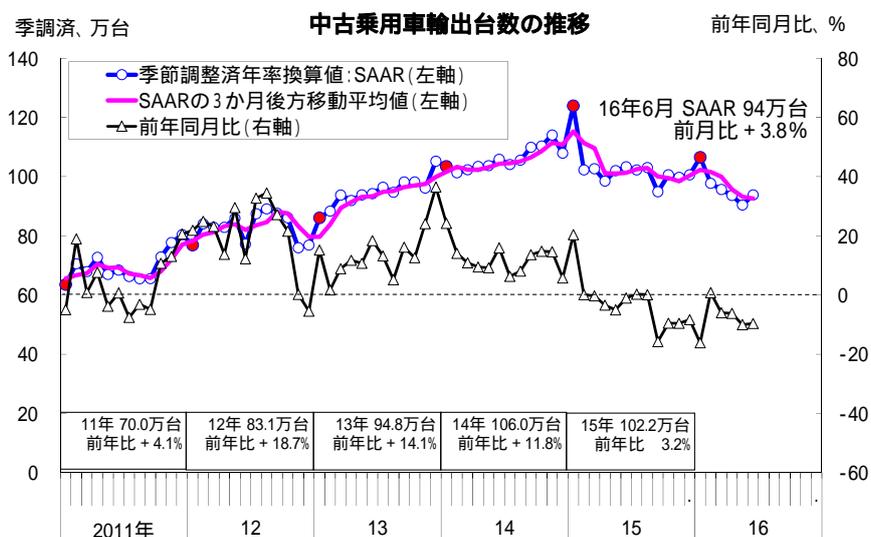
6月中古乗用車輸出台数（SAAR）は5か月ぶり増加もトレンドは軟調続く

- 国内流通業者に注目されている中古乗用車の輸出市場に目を向けると、6月の中古車輸出台数は前年同月比9.6%減と4か月連続の前年割れとなった。SAARは前月比3.8%増の94万台と5か月ぶりに増加したが、3か月後方移動平均でみるトレンドは軟調なままである（図表17）。同月の中古乗用車の輸出金額も前年同月比27.2%減と4か月連続の大幅減となり、中古車輸出市場を取り巻く環境は極めて厳しい状況が続いている（図表18）。
- 6月の中古乗用車輸出台数を主要仕向地別で見ると、強弱まちまちだが、特筆すべきはニュージーランド向けの増加が続き、アフリカ向け（主要6か国合算）輸出を初めて上回ったことである。また、アラブ首長国連邦（UAE）向け及びシンガポール向けが増加した一方で、アフリカ向けの減少が依然として続いている（図表19）。
- 中古車流通業者の間で高成長市場として注目されてきたスリランカ向けの6月の輸出台数（SAAR）は前月比25.6%増の1.8万台と6か月ぶりに増加に転じた（図表20）。5月27日に輸入自動車に対する関税が見直され、多くの主要輸入車種の関税が再度引き上げとなったが、関税が引き下げられた中古軽乗用車の輸出台数が大幅増となった（図表21）。同国向け輸出市場は、現地通貨安やマクロ景気悪化の逆風に晒され厳しい状況が続いているが、軽乗用車輸出の動向は、日本の軽市場に影響を与えているだけに要注目である。
- スリランカに代わって高単価車両の輸出先として期待されているシンガポール向けの6月の輸出台数（SAAR）は、前月比63.0%増の2.7万台と復調した（図表22）。同国では自動車所有権証（COE: Certificate of Entitlement）の発行数が増加しており、自動車の買い替え需要が盛り上がっているものの^(注)、本年3月以降に輸出台数が大きく落ち込んだ背景には、シンガポール当局の港湾ないし車両登録の処理能力が限界に達していたために、新車・中古車登録待ちの車両が港湾に滞留していたことがある。これにより、日本からの中古車の船積みが遅れていたが、6月は正常化したものと思われる。シンガポールでは自動車需要は引き続き旺盛であるため、同国向けの中古車輸出台数の動向に加え、同市場でのビジネス拡大を狙う中古車流通業者の動きにも注目したい。

(注) COEの詳細及び買い替え需要発生との関係性は、下記リンク先の「国内新車販売統計（2016年2月）」ページ10～11を参照されたい。

<https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/shinsha1602.pdf>

図表17 6月中古乗用車輸出台数（SAAR）は5か月ぶりの増加もトレンドは軟調

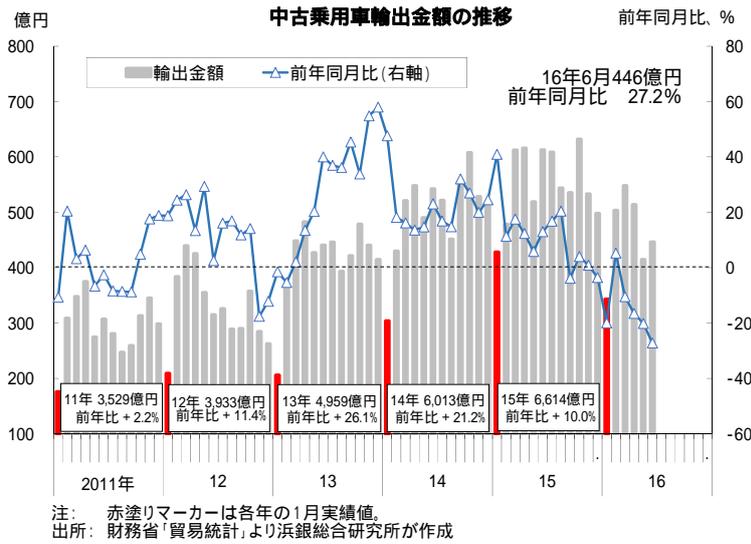


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

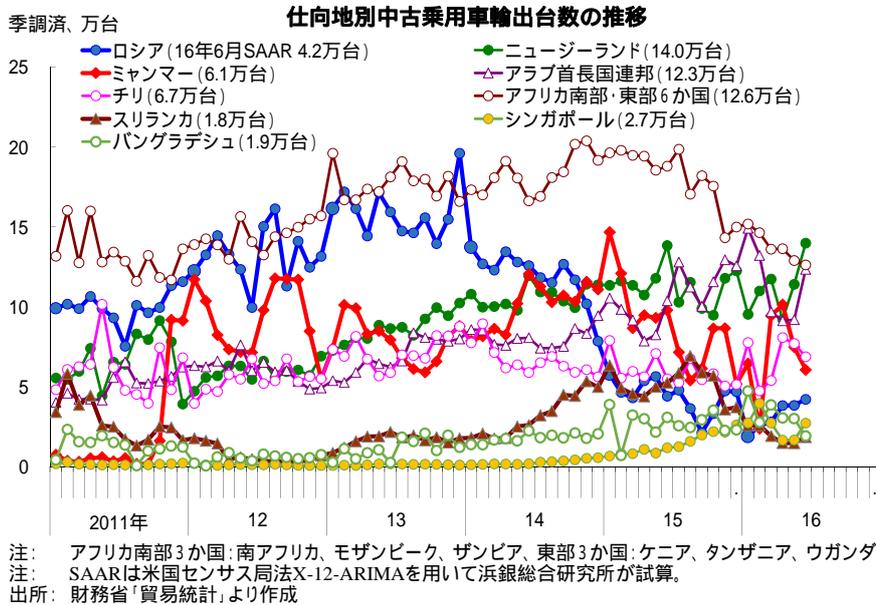
注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

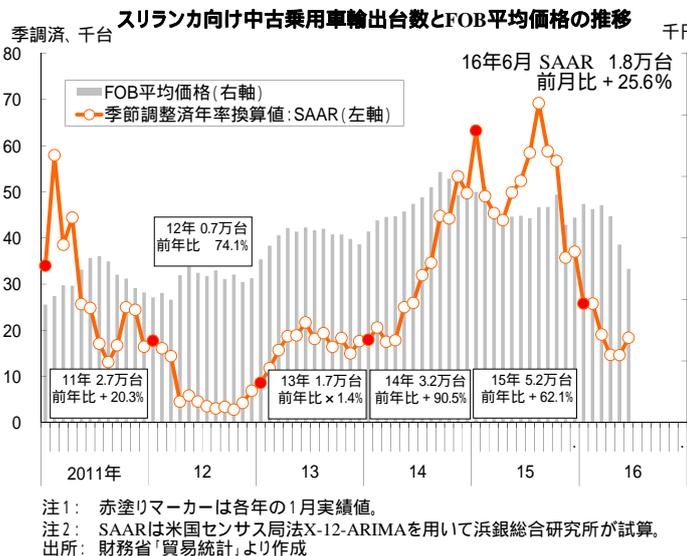
図表 18 6月の輸出金額は4か月連続の大幅減



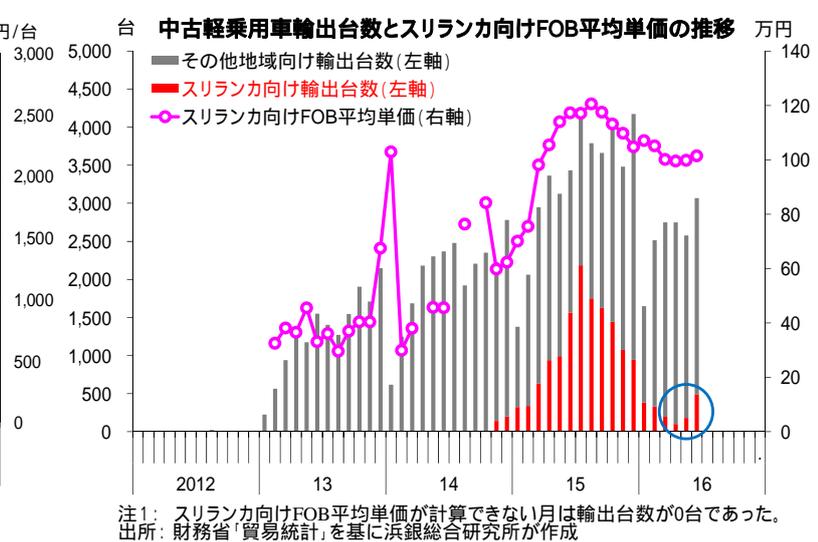
図表 19 ニュージーランド向け輸出が減少続くアフリカ主要地域向けを追い抜く



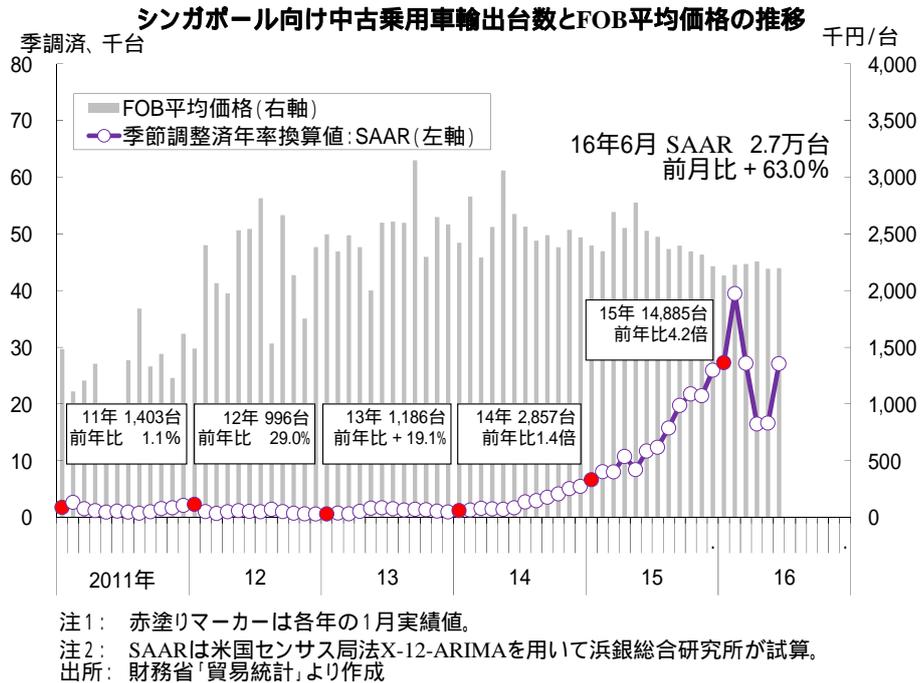
図表 20 スリランカ向けは6か月ぶりに増加



図表 21 スリランカ向け中古軽乗用車輸出が大幅増



図表 22 シンガポール向け輸出が復調



担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎
 Tel: 045-225-2375
 Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。